

東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (六)

－ 未完の計画及び補遺 －

大 原 理 恵

はじめに

平成8(1996)年4月設置の「別置本目録増改訂プロジェクト」(平成13年3月終了、平成13年5月東北大学附属図書館貴重図書等目録編集プロジェクト設置)は当初から電子化部門を持ちながら、予定されていたデータベース公開を実現することなく、平成18(2006)年3月『東北大学附属図書館本館所蔵貴重図書目録 和漢書篇』の刊行をもって終了した¹⁾。

本稿は本来、目録刊行終了後に残された諸課題を記すべきものであるが、プロジェクト終了後10年以上が経過し、貴重図書をめぐる状況も大きく変化したことから、その後の経緯の記述を行うこととしたものである。また、前稿執筆後確認した資料等により、前稿の補遺となる記述も加えた。

今回の記述の中心は、貴重図書データベース計画のその後(電子化と公開)、準貴重図書を中心とする貴重書の拡大(規定と運用)、貴重図書保管の場と担当係について(原資料と情報の管理)である。

本稿は、実現することのなかった計画について多く記述している。実現されなかったとはいえ、実現に向けて相当の検討が行われたのであれば、それらの計画行為は実際に存在したのであり無かったことにはできない。多くの具体的記述を含む文書が残されることもある。計画が実現目前に急遽変更された場合は、計画と実際の重みは単純に比較できない。あるいは、計画の背景にあった事情や意図が別なかたちで引き継がれる場合もある。逆に実際に開始された事業が短時間で停止する場合もある。さらにはそれが既に遠い過去のものとなれば、実現した事業であれ計画のみであった事業であれ、考察の対象としては本質的な差は生じないということもあり得るであろう。

本稿をもって、一連の東北大学附属図書館貴重図書目録編纂刊行の経緯及び背景についての記述を終了する。貴重図書目録の内容・目録記述については『東北大学附属図書館調査研究室年報』に掲載²⁾を続ける予定である。

貴重図書データベース

附属図書館本館「別置本目録増改訂プロジェクト」が設置された平成8年頃からの、東北大学附属図書館及び大学図書館等における貴重図書・古典籍和書データベース類の公開状況を辿ってみる。もとより網羅的なものではないが、大方の動きを見ることはできるであろう。

-
- 1) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (五) -平成18年3月『貴重図書目録 和漢書篇』刊行まで-」大原理恵 『東北大学史料館紀要』12号 2017年3月
 - 2) 「随筆・雑記類について：和漢書貴重図書目録の周辺」大原理恵 『東北大学附属図書館調査研究室年報』1 2012年3月 「公平本(金平本)について：和漢書貴重図書目録の周辺」大原理恵 『東北大学附属図書館調査研究室年報』3 東北大学附属図書館 2016年3月 をこれまでに公表。

平成8(1996)年度から京都大学附属図書館では電子図書館システム(京都大学エンサイクロペディア)を計画、平成10年3月より正式公開した。平成7年度・平成8年度文部省科学研究費で附属図書館所蔵貴重資料の画像データベース作成を行っている³⁾。

東北大学附属図書館では、平成9(1997)年12月「貴重書展示室」をインターネット公開した。貴重図書の電子展示である。

平成10(1998)年5月国立国会図書館では「国立国会図書館電子図書館構想」を策定。6月「デジタル貴重書展」で古典籍資料(貴重書等)の画像提供を開始している⁴⁾。

平成11(1999)年東北大学附属図書館では「狩野文庫画像データベース」約200点(約3,500画像)を公開した。また「狩野文庫和書目録データベース」約25,000点(約55,000冊分)「夏目漱石自筆資料画像データベース」(和書・洋書約3,000冊および自筆資料等約700点)を公開した。

この時期、和書古典目録について次のような動きがあった。国立情報学研究所(NII)では平成12年度から総合目録委員会(後に図書館情報委員会)の下に「古籍の取扱いに関する小委員会(後に「和漢古書等の取扱いに関する小委員会」)」を設置して和漢古書の運用方針について検討、「和漢古書に関する取扱い及び解説」「コーディングマニュアル(和漢古書に関する抜粋集)」最終案を策定し平成14年度「図書館情報委員会」に諮って平成15(2003)年から運用を開始した⁵⁾。これは、貴重図書目録の編纂方針にも関わることであったため、その当時筆者が目録担当者に尋ねたところ、東北大学附属図書館では直ぐにはこれに対応しない方針との回答であったという記憶がある。国立国会図書館では『国立国会図書館「日本目録規則1987年版改訂2版」和古書適用細則』を定め平成15(2003)年1月から適用を始めた⁶⁾。平成16(2004)年国文学研究資料館では、古典籍総合目録データベース公開を開始した。『古典籍総合目録』(国文学研究資料館編 岩波書店 1990年)収載データ及びその後の追加を合わせ約18万件の目録データを収録したものである⁷⁾。

平成16(2004)年6月より東北大学附属図書館では「東北大学和算ポータル」を新設、所蔵和算資料全文画像の順次ウェブ公開を開始した⁸⁾。

平成17(2005)年12月から早稲田大学附属図書館では「古典籍総合データベース」公開を開始した。事業に参画した立場からの、その意義の説明に次のようなものがある。

それまでも、明治期の書目を中心とした国立国会図書館の近代デジタルライブラリーや、本学でも他の大学でも、一部の特別資料を対象にした限定的な公開は行われていたが、古書・貴重書30万冊に及ぶ画像データを、高精細なカラーで、しかも一般のOPAC(WINE)からそのまま検索・閲覧・プリント

3) 「京都大学附属図書館所蔵貴重資料画像データベースの作成と公開について」山田周治・忽那一代『大学図書館研究』53 平成10年8月

4) 国立国会図書館デジタルコレクションの歩み <http://dl.ndl.go.jp/ja/history.html>

5) 「和漢古書の運用開始について」(NACSIS-CAT ニュース update:2003/06/12)
https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/news_cat_wakan_kaishi.html

6) 「国立国会図書館「日本目録規則1987年版 改訂2版」和古書適用細則」『全国書誌通信』116 国立国会図書館書誌部書誌調整課 2003年12月

7) 「古典籍総合目録データベース公開」『国文学研究資料館報』62号 国文学研究資料館 平成16年3月 p18

8) 『連載 和算の電子化(5):東北大学和算ポータルの公開』総務課情報企画係長米澤誠『木這子 東北大学附属図書館報』第29巻第1号(通巻106号) 平成16年6月 p9

アウトを可能にしたこのデータベースは、その規模と質の高さと利便性において、掛け値なしにその先進性を自負できると信じている（この事業は継続中であり、現在、30万冊すべてが公開されているわけではない）。

「『古典籍総合データベース』のことなど」 宗像和重
『ふみくら 早稲田大学図書館報』80 早稲田大学図書館 2011年3月 p4

同様の動きが諸機関で同時に活発に行われたわけであるが、その当時のデータベース作成に対する反省も見られるようになってきている。

今年2015年は、パーソナルコンピュータの普及において決定的なインパクトを与えたマイクロソフト社の Windows95が発売されて20年の節目にあたる。（中略）

パーソナルコンピュータの普及は学術研究機関に、とりわけ人文社会科学系の研究者にとってインパクトが大きかった。それまでワープロソフトを使って論文を書く以外にとりたてて電子データとの接触がなかった研究者が、いわゆるマルチメディアと遭遇したからだ。

パーソナルコンピュータのインパクトから5年ほど後、雨後の筍のように人文社会科学系研究機関ではデジタルデータベースが構築され始める。（中略・表省略）

ところで、2015年現在、デジタルデータベース界隈の状況はどうであろうか。表にも見られるとおり、一時の熱は冷めて、新たなフェーズに突入していると考えてよいだろう。

「田窪／矢野モデルに基づくネットワーク情報資源の再考とデジタルデータベースの劣化」 藤岡洋
『東洋文化研究所紀要』168号 東京大学東洋文化研究所 2015年10月 p276 (45) - 274 (47)

なお、国文学研究資料館では「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(平成26(2014)年度-平成35(2023)年度)が進行中である。これは日本語の歴史的典籍約30万点を画像データ化し既存の書誌情報データベースと統合させるというもので、東北大学もこれに拠点大学として参加している⁹⁾。

東北大学附属図書館では、和漢書古典籍の電子化・データベース関連事業は狩野文庫を中心に進められてきた。これは、狩野文庫の和書古典籍がほぼ全点マイクロフィルム化されその際の日録編纂の課程で電子データが作製されたという事情による。このマイクロフィルムと目録データを利用するかたちで事業は展開した。ただし、マイクロ化事業は民活導入によるものであった¹⁰⁾ので、そうした面からの制約も考慮されることになる。附属図書館事務で保管されている平成21年度第1回調査研究室¹¹⁾打合せ(平成21年7月17日開催) 配付資料4(「貴重図書(目録)DB化」資料概要)に掲載されている「狩野文庫目録(DB・画像)公開の経緯」(2008.11.3.作成)には、その展開が表形式で簡明にまとめられているので、主要項目のみで再編し次に示す。

9) 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画「本事業について」

<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/plans.html>

10) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(四) - 平成8年4月別置本目録増改訂プロジェクト設置以前 -」大原理恵 『東北大学史料館紀要』11号 東北大学史料館 2016年3月 p41

11) この調査研究室は平成19年設置。「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(三) - 昭和63年 貴重図書選定委員会設置まで -」大原理恵 『東北大学史料館紀要』10号 東北大学史料館 2015年3月 p43 参照。

【表1】

	公開日	内容	備考	注記※
①	平成9年(1997)12月5日	貴重書展示室		
②	平成12年(2000)2月24日	「狩野文庫画像データベース」を公開	情報管理課電子情報掛	※1
③	平成12年(2000)4月17日	「狩野文庫和書目録検索」を公開	情報サービス課長	※2
④	平成13年(2001)6月16日	「狩野文庫画像データベース」にモノクロ約5,700画像を追加	情報管理課電子情報掛	
⑤	平成14年(2002)2月	狩野文庫目録データを蔵書検索OPACに登録		
⑥	平成14年(2002)10月28日	狩野文庫画像データベース古地図編を公開	総務課情報企画掛	
⑦	平成14年(2002)10月29日	学術情報ポータルにて「狩野文庫目録」を公開	総務課情報企画掛	
⑧	平成15年(2003)年度	漢籍データベースの公開		京都大学の事業に協力
⑨	平成16年(2004)6月17日	「和算ポータル」を公開		目録・全文画像 ※3
⑩	平成19年(2007)3月5日	「狩野文庫 絵はがき」を正式公開	総務課情報企画掛	東北大学機関リポジトリ

※丸数字は原資料にはなく、筆者が便宜的に追加

※「注記」の項目は原資料にはなく、原資料の「解説」等を抄出 ただし※1～※3は筆者が追加

- ※1 「<お知らせ>貴重書画像を電子的に公開」～東北大学附属図書館所蔵「貴重書展示室」～(電子図書館システム委員会資料電子化班) (『木這子 東北大学附属図書館報』22巻3号(通巻80号)平成9年12月)
平成9年度附属図書館商議会(平成9年11月12日)
協議事項(3)附属図書館ホームページへの貴重資料解題の電子的展示について
- ※2 平成11年度第3回附属図書館商議会(平成12年2月24日)
報告事項(4)狩野文庫画像データベースの公開について ○配付資料9
報告事項(5)漱石文庫及び狩野文庫和書目録検索について ○配付資料10
- ※3 平成16年度第1回附属図書館商議会(平成16年7月28日)
報告事項(11)その他 ①和算資料全文データベースの公開について

原資料には、⑩の「解説」に赤字で「将来的に、すべての貴重書データをここで公開する構想になっている。」との注記があるので、この時期にはそのような構想になっていたであろう。

【表1】では電子情報を担当する課・係(掛)に変遷があるように見えるので、附属図書館のシステム及び電子情報を担当する係の一覧を次に示す。変遷が甚だしいが、これは組織上の編成の変化であって、実体的にはそれぞれの系統で職務が引き継がれていたようである。

【表2】

	附属図書館 総務課	附属図書館 情報管理課	情報シナジーセンター / 情報部情報基盤課	
昭和62年 (1987)	学術情報掛 設置			※総務課企画・渉外掛を廃止
平成2年 (1990)	システム管理掛			※総務課学術情報掛をシステム管理掛へ変更
平成11年 (1999)	システム管理掛	電子情報掛 設置		
平成13年 (2001)		電子情報掛	学術情報支援掛	※総務課システム管理掛を情報シナジーセンター学術情報支援掛に転換
平成14年 (2002)	情報企画掛		学術情報支援掛	※情報管理課の電子情報掛を廃止し、総務課に情報企画掛を設置
平成17年 (2005)	情報企画係		学術情報支援係	※情報シナジーセンター学術情報支援掛を情報部情報基盤課学術情報支援掛へ
平成20年 (2008)	情報企画係 学術情報支援係			※情報部情報基盤課 学術情報支援係を総務課学術情報支援係へ
平成25年 (2013)	学術情報基盤係			※情報企画係・学術情報支援係を統合

※『東北大学附属図書館年次報告』『東北大学附属図書館概要』等によって作成

「調査研究室について (メモ)」(平成21年10月1日 附属図書館調査研究室長¹²⁾)には貴重図書に関する「現状と課題」として、次のように記されている。

- ・貴重図書等の指定基準や選定方法が明確でない。 →貴重図書等委員会で検討
 - ・貴重図書等の保存と利用(制限)の関係が整理されていない。 →貴重図書等委員会で検討
 - ・劣化の著しい貴重図書等の修復・保存が進んでいない。 →貴重図書等委員会で検討
 - ・貴重図書等の複製とその利用が進んでいない。 →貴重図書等委員会で検討
 - ・貴重図書等について目録が未整備なものがある。
- | | |
|------------|--------|
| 例) 狩野文庫 洋書 | 2,000点 |
| 和漢書のうち新書 | 4,000点 |
- ・貴重図書等の目録の電子化の方針が明確でなく、電子化と提供が進んでいない。
 - ・貴重図書等の〔画像の〕電子化の方針が明確でなく、電子化と提供が進んでいない。
 - ・和古書、漢籍及び西洋古典の取扱、目録作成、補修等について基礎的な知識と技術と持つ図書系職員がほとんどいない。

これは、メモとして作成されたものであるためか、関係者でなければわかりにくいところがある。たとえば、貴重図書等の指定基準や選定方法については、既に基準・規定・手続き等が定められているので¹³⁾、ここで問題とされているのはその実際についてであろうと推測される。「貴重図書等」の目録未整備の例として、狩野文庫の洋書や和漢書新書が示されているように、ここでいう「貴重図書等」は少数限定的なものではなく、狩野文庫全体を対象とするような拡大的なものであると理解すべきであろう。現在ではこの「貴重図書等」の拡大が進行している状況であるので、次にこのことについて記す。

準貴重図書—貴重書の拡大

東北大学附属図書館で基準のみがあった準貴重図書が正式に運用されるようになったのは、平成27(2015)年のことである¹⁴⁾。まず、前稿の準貴重図書関連の記述を整理し、続けてその後の経緯について略述しておくことにしたい。

①「(第二) 特別本」¹⁵⁾

東北帝国大学附属図書館では、普通図書とは区別して特別の扱いを要する図書を「特別本」とし、第一特別本(別置本)と第二特別本(特別本)の二種があった。

12) 附属図書館事務保管。平成21年10月1日付で柳澤輝行医学系研究科教授が附属図書館副館長兼調査研究室長に就任しているが、本資料の送り状によれば、前調査研究室長(副館長)倉本義夫理学研究科教授を中心に作成したものとなっている。

13) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (三)」

14) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (三)」p60

15) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (一) - 昭和11年版『和漢書別置本目録 未定稿』刊行とその周辺 -」大原理恵『東北大学史料館紀要』8号 2013年3月 東北大学史料館「特別本と別置本」p82

②「準貴重書」¹⁶⁾

「貴重書に関する問題検討会」(昭和60年3月26日付最終報告)「東北大学附属図書館貴重書等指定基準」では、「貴重書」「準貴重書」の二種を設定し、それまでの「別置本」「特別本」は既に手続きを終ったものとみなして「貴重書」「準貴重書」に変更できるような項目を附則としたが「準貴重書」については実体がないままとなった。

平成12(2000)年12月附属図書館副館長が設置された際に、平成12年度第4回附属図書館商議会(平成13年2月9日)において、貴重図書の取扱い要領・貴重図書選定委員会設置要項の改正等が協議され、新たに設置された「貴重図書等選定委員会」を「貴重図書等」としたのは、曖昧なままであった準貴重図書等について検討する姿勢を明確にしたもので「貴重図書の指定及び取扱い要領」(昭和63年1月20日制定)も「貴重図書等の指定及び取扱い要領」(平成13年2月9日改正)と改められた¹⁷⁾。

③特別コレクション

平成15(2003)年度第2回(平成15年10月1日)の貴重図書等選定委員会において、特別コレクション(仮称)の運用方針案が検討され、第3回委員会(平成16年1月19日)において承認、第4回委員会(平成16年2月27日)において特別コレクションとして、狩野文庫・和算関係文庫・秋田家史料・古文書・晩翠文庫・櫛田文庫・ケーベル文庫・チーテルマン文庫・ゼッケル文庫・シュタイン文庫・ヴント文庫の指定を承認。運用は平成16年度中は試行期間とし問題点等を洗い出し、平成16年度末の商議会で利用規則の改正を行うという運びであった。

④準貴重図書←特別コレクション

「平成26年度第1回貴重図書等委員会」(平成26年6月24日)において、貴重図書に指定されていない貴重資料等(準貴重資料を含む)の取り扱いについてサービス課から提案が行われ、重要な資料について準貴重図書等の指定により「資料保存と適正な利活用を進める方向性」を確認し、関連部局研究者へ周知を行うこととした。狩野文庫等全体を準貴重図書に指定することが提案された。学内関連部局研究者を対象とした「準貴重図書指定に関する意見聴取のための説明会」等が行われ、準貴重図書の運用についての検討を経て、「平成26年度第3回貴重図書等委員会」(平成27年2月16日)において「東北大学附属図書館準貴重図書の利用に関する申合せ」を承認した。平成27年度第1回貴重図書等委員会(平成27年6月22日)において協議の結果、特別コレクション全11種(上記)について、準貴重図書指定が妥当と判断した¹⁸⁾。

現在、この方向性に基づいて、準貴重図書の管理方法等の変更が行われている状況である。これにともなって、本館2号館の機能も変化している。そのことについては次に記述する。繰り返しになるが、この変更によって準貴重図書は、かつての「特別本」及びその特別本を想定した「準貴重図書」とは性質が異なっていることを確認しておきたい。貴重性を持つ資料を絞り込むのではなく、大きなまとまりとして指定する性質のものとなっているのである。

16)「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(三)」p60

17)「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(五) -平成18年3月『貴重図書目録 和漢書篇』刊行まで-」大原理恵 『東北大学史料館紀要』12号 2017年3月 p80

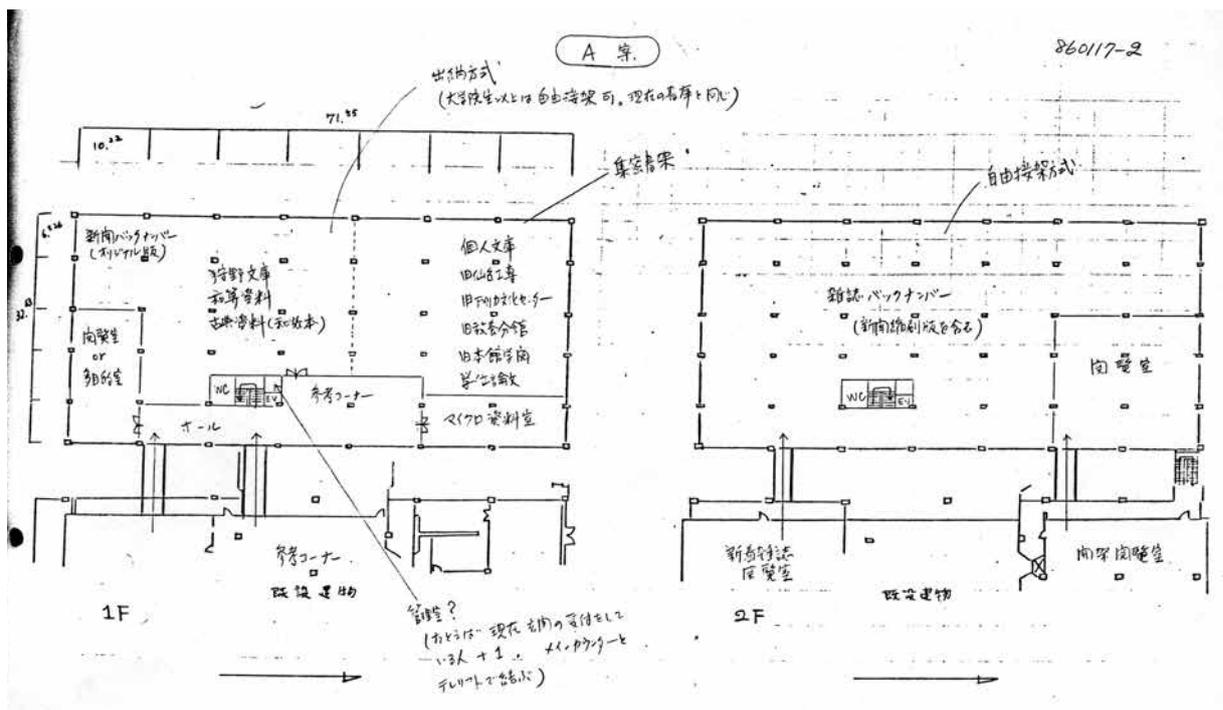
18) 以上の記述は各議事要録による。

2号館計画の変遷と貴重書係設置

東北大学附属図書館では、書庫の狭隘化に対処するため、本館2号館を増築（平成元（1989）年11月竣工・平成2年5月開館）した。前稿に¹⁹⁾「伝聞」として、計画段階では、貴重性を持つ資料をすべて2号館に移すことが検討されたが実現しなかったと記述したが、附属図書館事務で計画段階の資料が保管されていたことを確認した。これは、資料移転作業計画・経費見積のために作成されたものである。また、実現した現在の2号館増築計画以前の、幾つかの増築計画書も保管されていた。

【図1】は、その増築計画の一つで昭和61（1986）年頃の作成と推測されるものである。資料配架計画が具体的に記されており、1階に狩野文庫・和算資料・古典資料（和装本）、個人文庫・旧仙台工専・旧アメリカ文化センター・旧教養部分館・旧本館学閲（学生閲覧室）資料、学位論文、マイクロ資料の配架を予定している。2階は雑誌バックナンバー（新着雑誌は1号館）である。1階は職員による出納方式、2階は自由接架方式とし、1号館とは各階渡り廊下で行き来ができる設計であり、閲覧室の拡張も見込まれていたと考えられる。

基準は貴重性ばかりではなく利用頻度であったかもしれないが、古典資料や個人文庫をまとめて新館に移動する方向性は、既にこの段階には検討されていたことになる。



【図1】

「増築新館についての基本的考えかた」図書館増築検討委員会（62. 10. 20.）によれば、資料配置計画は次の通りである。

19) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (四)」 p38

- 1 階 古典資料閲覧室とし、狩野文庫、旧分類古典、和算、および個人文庫の1部を配架する。
- 2 階 学術雑誌閲覧室とし、製本済和文誌を配架する。
- 3 階 学術雑誌閲覧室とし、製本済欧文誌を配架する。
- 4 階 特殊文庫閲覧室とし、1階に配架した以外の個人文庫などの閉架コレクションの他、旧制第二高等学校、旧仙台高等工業専門学校、旧仙台ACC等旧蔵書、東北アメリカ学会図書、外国学位論文等を配架する。

利用方式は、次の方式が検討されている。各階で条件が異なるという、管理困難な方式となっている。

【表3】

	研究者	学生	外来者
1階	半開架方式	入室出来ず	指定席での閲覧
2階	自由接架方式		
3階	自由接架方式		
4階	カウンターで許可を得た者のみが入室できる		

収蔵方式は、「約10年間の図書増加冊数を見込むとともに、収蔵資料の量及び形態を考慮し、1階には集密書架のみを採用する。」としており、この時期には、古典資料は集密書架に配架する前提で計画がなされていた。

運用方式は、次のようなものが示されている。ここからは業務の詳細がうかがえる。古典資料・貴重書については、学外者への対応が意識されていることが注目される。

- 1) 新館収蔵資料の管理運用のため、1階連絡路入口付近にカウンターを設置する。
- 2) カウンターでは以下の業務を行う。
 - イ. 1階古典資料閲覧室への入室チェック（入庫検索有資格者）
 - ロ. 〃 からの貸出・返却（入庫検索有資格者）
 - ハ. 1階古典資料閲覧室利用希望学外者への案内等
 - ニ. 〃 についてのリファレンス
 - ホ. 2-3階製本雑誌の貸出・返却（研究者・学生）
 - ヘ. 4階特殊資料閲覧室への入室チェック
 - ト. 〃 の貸出・返却
 - チ. 4階貴重図書の案内、利用、監視等
 - リ. 視聴覚室、マイクロ資料等の利用案内等
- 3) カウンター業務のためには、交替要員の用意が必要。

さらに、現在の2号館建築が実現し、蔵書の移転作業のため「平成元年度 移転費要求書」として作成された資料に、移転資料とその移転先の一覧がある。

【表 4】

品名	規格	数量	備考
(省略)			
個人文庫		20,050[冊]	〃 [地下1F]～1F 集密 (外国・日本・旧教養)
別置本 (漱石)		3,000[冊]	〃 [地下1F]～4F 貴重
(中略)			
狩野文庫 (和書・洋書)		108,000[冊]	〃 [地下2F]～1F 準貴
古典 (旧分類・旧大型・旧教養)		49,900[冊]	〃 [地下2F]～1F 集密
和算		7,925[冊]	〃 [地下2F]～1F 集密
別置本 (第2室)		12,750[冊]	〃 [地下2F]～4F 貴重
〃 (西藏文献)		4,569部	〃 [地下2F]～〃 [4F 貴重] (箆笥8本)
古文書(晴山・未整理)		2,550冊	〃 [地下2F]～3F
〃(秋田家・一般)		8,800点	〃 [地下2F]～3F (箆笥66・ケース11引出し入)
古典軸物		8本	〃 [地下2F]～2F
狩野文庫軸物		44本	〃 [地下2F]～2F
一般古典軸物		218本	〃 [地下2F]～2F
〃 函物		110函	〃 [地下2F]～2F
(以下略)			

これによれば、別置本 (貴重書)・個人文庫・古典・古文書類は、原則として2号館に移転する計画であったと考えられる。古典・和算資料の移転先として、集密書架が指定されており、これが問題となり²⁰⁾移転計画が見直されることになったものと推測される。その時期は、「新館移転計画に関する事前打ち合わせ」(平成元年8月17日)には「新館〔2号館〕1階集密書架の工事が2年次に互り実施されることとなったため、古典資料、狩野文庫、外国人個人文庫の搬送配架計画を2次に分けて計画することが必要となった。」とあるのでそれ以降のことであろう²¹⁾。

一連の書類綴に含まれていた利用計画平面図を示す。古典資料閲覧室(1階)【図2-1】と特殊文庫閲覧室(4階・部分)【図2-2】である。掛員の机の位置も示され、掛員の動きも検討されていたものと思われる。

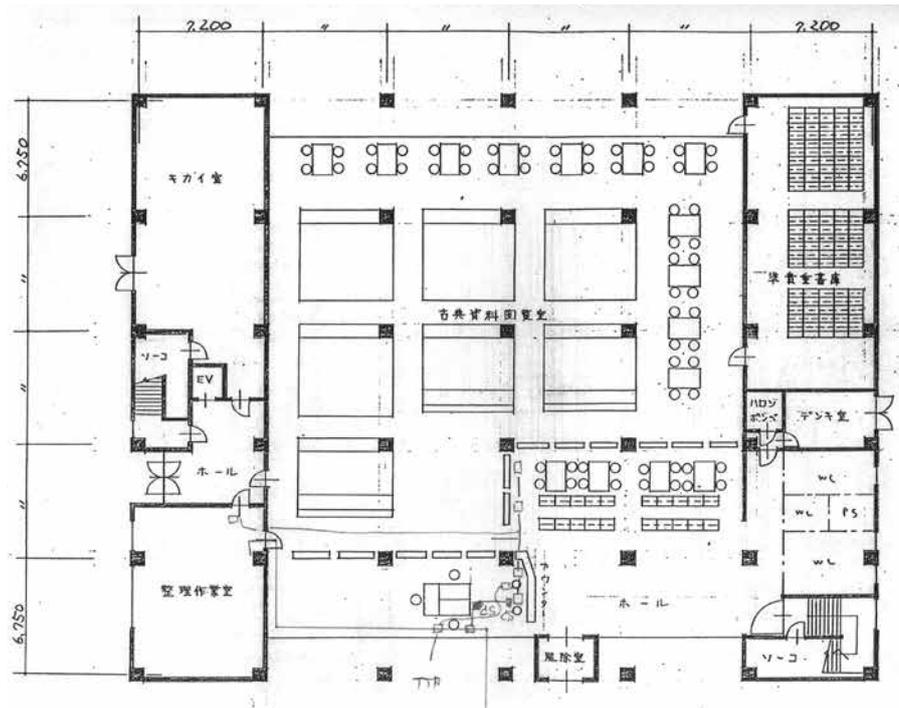
前稿²²⁾で、新館(2号館)の増築に伴い、平成2年4月1日付で新たに閲覧第二掛が設置されたことを記した。貴重図書のみを扱う掛ではないが、貴重図書を担当する掛が明確に定められたことは、貴重図書管理上は画期的であった。ただし事務分掌規程では、設置当初から閲覧第二掛が貴重図書を取り扱う、と明確に規定されていたわけではない。規程上、「貴重図書の管理及び出納に関すること」は、閲覧第一掛もつかさどるところであって、資料の所在によって分けられているのに過ぎない²³⁾(p64-65事務分掌対照参照)。つまり、実態として2号館に貴重図書が保管されていれば、閲覧第二掛の所掌となるのである。

20) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (四)」p39

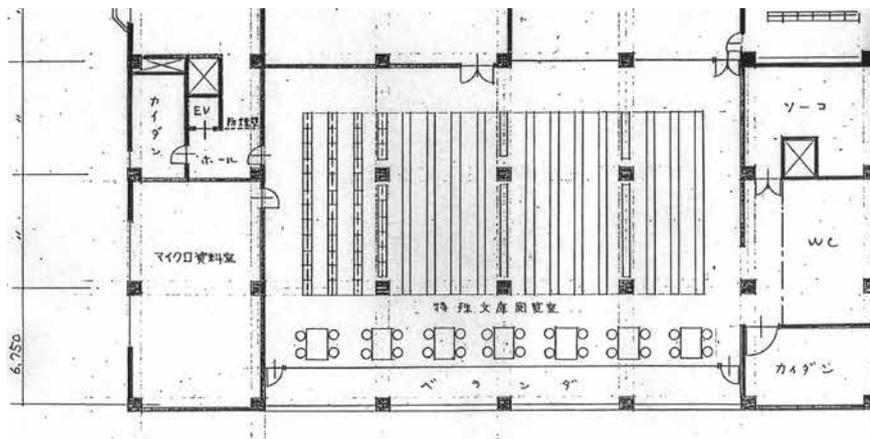
21) 竣工時の配架計画については「附属図書館増築に伴う本館・新館の利用計画」(『木這子 東北大学附属図書館報』14巻4号(通巻56号)平成2年2月)参照。

22) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (四)」p38

23) 「東北大学附属図書館事務部事務分掌規程の一部を改正する規程」(平成二年四月十七日規第二十号)『東北大学学報』第1270号別冊 平成2年4月15日 p9-10



【図2-1】 2号館利用計画1階 古典資料閲覧室



【図2-2】 2号館配架計画4階（部分）特殊文庫閲覧室

また従来、図書館資料の展示に関することは、参考調査掛の所掌であった²⁴⁾が、これも閲覧第二係の所掌となる。この変更が行われたのは、東北大学の法人化にともない、東北大学附属図書館事務部事務分掌規程（昭和49年4月16日規第31号）が廃止²⁵⁾され、東北大学附属図書館事務部事務分掌内規（制定 平成17年9月1日）が制定された際である。閲覧第二係が「貴重資料等」を扱うこ

24) 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（三）」 p59-60参照

25) 「法人化に伴う関係規程の整備に関する規程」（平成16年3月31日規第1号）『東北大学学報』第1607号別冊平成16年6月

とが明記されたのもこの時である。また、参考調査の所掌であった「図書館資料の解題に関すること」が削除され、「附属図書館本館の見学に関すること」が追加されている。かつては貴重図書に関する情報は参考調査係で集約²⁶⁾されることが期待されていたが、それは閲覧第二係に移行したものと考えられる。

平成28(2016)年7月1日より閲覧第一係と閲覧第二係の名称が変更となり、名実ともに貴重図書を担当する係が確立する。閲覧第一係は閲覧係に名称変更し雑誌も含む一般書を担当、閲覧第二係は貴重書係に名称変更し貴重図書、準貴重図書等を担当することとなった。平成28年度第1回貴重図書等委員会(平成28年6月30日)においてそのことが報告されている(議事要録及び資料6による)。

これらの貴重図書をめぐる状況の変化は現在も進行中であるが、本稿はここで擱筆する。

東北大学附属図書館
Tohoku University Library

狩野文庫和書目録検索

図書館ホームページ 利用・サービス 検索・リンク集 コレクション 広報・刊行物

▼ 本学が所蔵する狩野文庫に含まれる和書約25,000点約55,000冊が検索できません。検索方法、検索項目および表示レコード形式については、凡例をご覧ください。

▼ 漢字は、旧字体が多く使われています。漢字で検索できないときは、ヨミ(カタカナ)でも検索してみてください。

このページおよびこのページからリンクされるすべてのページ・画像の著作権は東北大学附属図書館にあります。これらを無断で複製・再配布することを禁止します。

条件	検索語	検索項目	検索タイプ
AND ▼	<input type="text"/>	レコード全体 ▼	フルーズ ▼
AND ▼	<input type="text"/>	レコード全体 ▼	フルーズ ▼
AND ▼	<input type="text"/>	レコード全体 ▼	フルーズ ▼

検索実行 リセット

協力: 大型計算機センター
画像データのサーバは、附属図書館と大型計算機センターとの研究開発用マルチメディア研究情報ライブラリシステムを利用しています。

協力: 日商岩井インフォコム株式会社

【画像】「狩野文庫和書目録検索」(インターネット・アーカイブ <https://archive.org/> による)

【謝辞】本稿に至る一連の記述の執筆に際し、東北大学附属図書館の各位から資料及び情報を御提供また御意見をいただいた。深く感謝申し上げます。

※引用にあたって、原文の漢字の字体・活字の書体を改め、傍線・ふりがな等は省略したことがある。また「,」「.」は「、」「。」等に改めた場合がある。〔 〕内は筆者の推定による補記である。文献の刊行年は原則として奥付等に従い、西暦・元号の統一はしていない。

※前稿訂正

「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(四) - 平成8年4月別置本目録増改訂プロジェクト設置以前 - 」大原理恵 『東北大学史料館紀要』 11号 東北大学史料館 2016年3月

・p33 「第二閲覧掛」を「閲覧第二掛」に訂正。

・p43 【表2】東北帝国大学附属図書館出品資料の「第八号室」の記述を一段下げる。

※「一六 後三年役合戦絵詞(模本) 一卷」は第七号室展示

26) 貴重図書と参考調査掛については「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(三)」参照。

東北大学附属図書館事務部
事務分掌規程

制定：昭和49年4月16日規第31号
改正：(中略)

平成2年4月17日規第20号
平成7年1月31日規第5号
平成11年3月15日規第6号

- 第13条 参考調査掛においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書館資料の利用の指導及び助言に関する事。
 - 二 文献の調査及び情報の速報に関する事。
 - 三 参考質問に関する事。
 - 四 図書館資料の解題に関する事。
 - 五 特定主題書目の編さんに関する事。
 - 六 図書館資料の選定に関する事。
 - 七 出版目録の収集及び利用に関する事。
 - 八 参考調査事務に関する利用統計に関する事。
 - 九 図書館資料の展観に関する事。
 - 十 レファレンス室の整備及び監守に関する事。

東北大学附属図書館事務部
事務分掌内規

制定 平成17年9月1日
最終改正 平成20年4月1日
平成26年5月20日

- 第12条 参考調査係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書館資料の調査及び学術情報の提供に関する事。
 - 二 図書館利用のオリエンテーション及びガイダンスに関する事。
 - 三 参考図書を選定に関する事。
 - 四 他大学図書館等への文献複写及び現物貸借の受付に関する事。
 - 五 学生及び教員の他大学図書館等の利用に関する事。
 - 六 出版目録の収集及び利用に関する事。
 - 七 参考調査事務に関する調査統計に関する事。
 - 八 附属図書館本館の見学に関する事。
 - 九 利用者用パソコンの管理に関する事。
 - 十 国際関係資料の参考調査及び展示に関する事。
 - 十一 レファレンス・コーナーの整備及び監守に関する事。
 - 十二 図書館情報システムの検索システムに関する事。

東北大学附属図書館事務部
事務分掌内規

制定 平成17年9月1日
最終改正 平成28年9月27日

- 第12条 参考調査係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書館資料の調査及び学術情報の提供に関する事。
 - 二 図書館利用のオリエンテーション及びガイダンスに関する事。
 - 三 参考図書の選定に関する事。
 - 四 他大学図書館等への文献複写及び現物貸借の受付に関する事。
 - 五 学生及び教員の他大学図書館等の利用に関する事。
 - 六 二次資料（電子リソースを含む）の整備と利用に関する事。
 - 七 参考調査事務に関する調査統計に関する事。
 - 八 附属図書館本館の見学に関する事。
 - 九 利用者用パソコンの管理に関する事。
 - 十 国際関係資料の保管、管理、参考調査及び展示に関する事。
 - 十一 グローバルラーニングサービス（留学、国際交流等に関する学びの支援）に関する事。
 - 十二 図書館情報システムの検索システムに関する事。

東北大学附属図書館事務部
事務分掌規程

制定：昭和49年4月16日規第31号
改正：(中略)

平成2年4月17日規第20号
平成7年1月31日規第5号
平成11年3月15日規第6号

- 第14条 閲覧第一掛においては、次の事務（閲覧第二掛の所掌に属するものを除く。）をつかさどる。
- 一 図書館資料の閲覧、貸出し及び納架に関する事。

東北大学附属図書館事務部
事務分掌内規

制定 平成17年9月1日
最終改正 平成20年4月1日
平成26年5月20日

- 第13条 閲覧第一係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書館資料の閲覧、貸出し及び納架に関する事。
 - 二 図書館資料の保管及び配架に関する事。
 - 三 利用統計に関する事。
 - 四 開架図書（レファレンス・

東北大学附属図書館事務部
事務分掌内規

制定 平成17年9月1日
最終改正 平成28年9月27日

- 第13条 閲覧係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書館資料の閲覧（視聴覚資料を含む）、貸出し及び納架に関する事。
 - 二 図書館資料の保管及び配架に関する事。
 - 三 利用統計に関する事。
 - 四 開架図書（レファレンス・

<p>二 図書館資料の保管及び配架に関すること。</p> <p>三 貴重図書の管理及び出納に関すること。</p> <p>四 利用統計に関すること。</p> <p>五 開架図書（レファレンス室備付けの図書館資料を除く。）及び指定図書の整備及び運用に関すること。</p> <p>六 利用者の登録に関すること。</p> <p>七 特別許可閲覧証の発行に関すること。</p> <p>八 図書館の利用案内に関すること。</p> <p>九 図書館資料の点検に関すること。</p> <p>十 図書館資料の破損本、欠本等の調査及び補修に関すること。</p> <p>十一 閲覧関係の室（レファレンス室を除く。）の整備及び監守に関すること。</p> <p>十二 書庫の利用に関すること。</p> <p>第15条 閲覧第二掛においては、別館に関し、次の事務をつかさどる。</p> <p>一 前条第1号から第4号まで及び第9号から第12号までに掲げる事務。</p> <p>二 その他図書館資料の利用の指導等に関すること。</p>	<p>コーナー備付けの図書館資料を除く。）の整備及び運用に関すること。</p> <p>五 利用者の登録及び利用証の発行に関すること。</p> <p>六 開館・閉館及び利用時間に関すること。</p> <p>七 図書館の利用案内及び利用手続きに関すること。</p> <p>八 図書館資料の点検に関すること。</p> <p>九 図書館資料の破損本、欠本等の調査及び補修に関すること。</p> <p>十 閲覧関係の室（レファレンス・コーナーを除く。）の整備及び監守に関すること。</p> <p>十一 書庫の利用に関すること。</p> <p>十二 部局所蔵資料の利用支援に関すること。</p> <p>十三 図書館情報システムの閲覧システムに関すること。</p> <p>第14条 閲覧第二係においては、次の事務をつかさどる。</p> <p>一 貴重資料等の保管、管理及び運用に関すること。</p> <p>二 貴重資料等の破損本等の調査及び補修に関すること。</p> <p>三 国際関係資料の保管、管理及び運用に関すること。</p> <p>四 図書館資料の展示に関すること。</p> <p>五 貴重図書関係の室の整備及び監守に関すること。</p> <p>六 図書館資料の撮影、掲載及び出品に関すること。</p> <p>七 視聴覚コーナーに関すること。</p> <p>八 その他図書館資料の利用の指導等に関すること。</p>	<p>コーナー備付けの図書館資料を除く。）の整備及び運用に関すること。</p> <p>五 利用者の登録及び利用証の発行に関すること。</p> <p>六 開館・閉館及び利用時間に関すること。</p> <p>七 図書館の利用案内及び利用手続きに関すること。</p> <p>八 図書館資料の点検に関すること。</p> <p>九 図書館資料の破損本、欠本等の調査及び補修に関すること。</p> <p>十 利用者向けの施設及び設備（参考調査係担当を除く）の整備と運用に関すること。</p> <p>十一 書庫の利用に関すること。</p> <p>十二 部局所蔵資料の利用支援に関すること。</p> <p>十三 図書館情報システムの閲覧システムに関すること。</p> <p>第14条 貴重書係においては、次の事務をつかさどる。</p> <p>一 貴重資料等の保管、管理及び運用に関すること。</p> <p>二 貴重資料等の破損本等の調査及び補修に関すること。</p> <p>三 図書館資料の展示に関すること。</p> <p>四 貴重図書関係の室の整備及び監守に関すること。</p> <p>五 図書館資料の撮影、掲載及び出品に関すること。</p> <p>六 その他図書館資料の利用の指導等に関すること。</p>
(中略)		
附 則		
<p>1 この内規は、平成17年9月1日から適用する。</p> <p>2 東北大学附属図書館事務部事務分掌規程（昭和49年4月16日規第31号）は、廃止する。</p>		
(以下略)		

【東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (一)～(六) 総目録】

□東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (一) - 昭和11年版『和漢書別置本目録 未定稿』刊行とその周辺 -

(東北大学史料館紀要 8 2013年 3月)

はじめに - 記念と情報 -

東北帝国大学草創期の典籍をめぐる状況

【写真】狩野亨吉氏書簡 (史料館所蔵)

【写真】貴重図書と「札」(東北大学附属図書館蔵)

【付表】(「貴重書の一部」)

関東大震災と古典籍

特別本と別置本

創立二十五周年貴重図書展示と昭和11年別置本目録編集印刷の経緯

【写真】展示会場写真 (史料館所蔵)

□東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (二) - 昭和36年版『東北大学附属図書館別置本目録 増訂稿』刊行まで -

(東北大学史料館紀要 9 2014年 3月)

はじめに

仙台の風景 - 東北帝国大学の集書活動 -

【写真】『近松全集』(東北大学附属図書館蔵)

第二次大戦前後の状況

【写真】『古代宗教論』『古代宗教論余』(東北大学附属図書館蔵)

【写真】『湿度調』(東北大学附属図書館 事務保管)

【写真】『別置本目録』書込部分 (東北大学附属図書館事務保管)

旧教養部図書について (旧制第二高等学校図書等)

【写真】旧教養部古典籍に使用されている木製ケース

昭和36年度版別置本目録の刊行

【写真】東北大学創立五十周年式典 図書館見学風景 (東北大学史料館所蔵)

【付表】昭和36年度版目録において追加された別置本

□東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (三) - 昭和63年 貴重図書選定委員会設置まで -

(東北大学史料館紀要 10 2015年 3月)

はじめに

『東北大学所蔵和漢書古典分類目録』編纂事業

貴重図書の再検討

【資料】(貴重図書基準) 【附属図書館メモ】【長澤案】

【写真】「丙」の記入があるカード

貴重図書規準の検討

【資料】貴重図書指定基準〔昭和11年〕・旧上野図書館基準〔昭和28年〕

附属図書館本館の川内移転と古典目録編纂事業の完了

【写真】「附属図書館建物配置図」(部分)

【写真】解体中の書庫 (史料館蔵)

【図1】A 【片平書庫】 B 【川内新営本館書庫地下2階】

【写真】書庫内部 (史料館蔵) ※片平

貴重図書に関する諸制度の整備

【表】(和漢書別置本指定関係原議書一覧) 昭和41-50年

【資料】貴重図書選定委員会設置要項・貴重図書等委員会設置要項

□東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (四) - 平成8年4月別置本目録増改訂プロジェクト設置以前 -

(東北大学史料館紀要 11 2016年 3月)

はじめに - 静かな組織体 -

附属図書館長のあり方

【表1】東北大学・九州大学・東京大学・京都大学の歴代附属図書館長一覧 (～平成14年)

本館2号館開館

【図1】附属図書館本館2号館貴重書庫付近

貴重図書のマイクロフィルム作製

大学図書館の一般公開と展示事業

【表2】東北帝国大学附属図書館出品資料 (昭和3年)

【図2】左:【計画】1971年 右:【実際】1974年

※展示スペース

『貴重本目録』作成計画案 (昭和62年11月)

□東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (五) - 平成18年3月『貴重図書目録 和漢書篇』刊行まで -

(東北大学史料館紀要 12 2017年 3月)

はじめに

プロジェクト設置と附属図書館調査研究室

【図1】 - 【図5】 (調査研究室所在変遷) (昭和46年 - 平成7年)

【資料】東北大学附属図書館調査研究室設置規程 (昭和40年11月19日 規第54号)・東北大学附属図書館調査研究室内規 (制定 平成19年7月27日)

制度・組織の改編 - 副館長・情報シナジーセンター

【資料】東北大学附属図書館長・分館長選考基準の一部を改正する基準 (平成十二年十月十七日 規第百五十三号)

貴重図書等委員会と準貴重図書

【付表】東北大学附属図書館長・副館長 平成8年度以降

□東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (六) - 未完の計画及び補遺 -

(東北大学史料館紀要 13 2018年 3月)

はじめに

貴重図書データベース

【表1】「狩野文庫目録 (DB・画像) 公開の経緯」

【表2】(電子情報担当係の変遷)

準貴重図書 - 貴重書の拡大

2号館の変遷と貴重書係設置

- 【図1】 2号館増築計画 昭和61(1986)年頃
- 【表3】 2号館運用計画
- 【表4】 2号館への資料移転計画
- 【図2-1】 【図2-1】 2号館利用計画1階
- 【図2-2】 【図2-2】 2号館配架計画4階(部分)
- 【画像】 「狩野文庫和書目録検索」

【資料】 東北大学附属図書館事務部事務分掌規程(平成11年3月15日改正)・東北大学附属図書館事務部事務分掌内規(平成17年9月1日制定)・東北大学附属図書館事務部事務分掌内規(平成28年9月27日最終改正)

【主要参考文献・資料一覧】

- 『東北帝国大学所蔵狩野氏旧蔵書仮目録』 東北帝国大学図書館 大正3年
- 『狩野文庫別置本仮目録』 東北帝国大学附属図書館編 謄写版(附属図書館事務保管)
- 『狩野文庫別置本目録』(昭和十年四月十五日) ※手書
- 『狩野文庫特別本目録』(昭和拾年参月式拾貳日) ※手書
- 『和漢書別置本及特別本目録(狩野文庫外)』(昭和十年三月廿五日) ※手書
- 『狩野文庫概説』 東北帝国大学附属図書館 昭和12年11月
- 『源氏物語関係書解題』(重松信弘稿) 東北帝国大学附属図書館 昭和7年(解題叢書 第一篇)
- 『和漢書別置本目録 未定稿』 東北帝國大學附属圖書館[編] 東北帝國大學附属圖書館 昭和11年8月
- 『和漢書別置本目録 未定稿』 東北帝國大學附属圖書館[編] 東北帝國大學附属圖書館 昭和11年10月
- 『東北帝国大学二十五周年記念 展覧目録』(昭和十一年十月一日)
- 『古写経目録』 東北大學附属圖書館 昭和28年6月 謄写版
- 『東北大学附属図書館別置本目録 増訂稿』 東北大学附属図書館[編] 東北大学附属図書館 昭和37年
- 『東北大學所蔵和漢書古典分類目録』 東北大学附属図書館編 昭和49年3月-昭和57年3月
- 『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』 東北大学附属図書館編集 東北大学附属図書館 平成18年

- 『閲覧の栞』(自昭和十年至昭和十一年) 東北帝国大学附属図書館
- 『閲覧の栞』(自昭和十二年至昭和十三年) 東北帝国大学附属図書館
- 『図書館利用案内 - 教官のために -』 東北大学附属図書館 1971年
- 『図書館利用ハンドブック』 東北大学附属図書館本館 1974年
- 『東北大学附属図書館要覧』 昭和42年 東北大学附属図書館

- 『東北大学五十年史』 東北大学 昭和35年
- 『東北大学百年史』 東北大学百年史編集委員会編 平成15年-平成22年

- 『東北大学附属図書館月報 図書館通信』 1964年4月～
- 『木這子 東北大学附属図書館報』 昭和51年4月～
- 『東北大学附属図書館年次報告』

- 「貴重書に関する問題検討会 議事要録・最終報告書」(昭和59年)(附属図書館事務保管)
- 「貴重本目録作成計画(案)」昭和62年11月5日(附属図書館事務保管)
- 「事業計画「東北大学附属図書館別置本目録」増改訂プロジェクトについて」(『東北大学附属図書館研究年報』29 平成8年12月)

『本食い蟲五拾年』常盤雄五郎 仙台昔話会 昭和31年
「大学図書館の三十年(二)」伊木武雄(『同心』2 東北大学附属図書館同心編集部 昭和24年8月)
「愚得録(五)」矢島玄亮(『東北地区 大学図書館協議会誌』第9号 昭和34年10月)
「狩野文庫について－在館33年の思い出－」矢島玄亮(『MAUL 宮城県大学図書館協会会報』27 1966年)
「狩野文庫とともに」矢島玄亮(『図書館学研究報告』16 東北大学附属図書館 昭和58年12月)
『原田隆吉図書館学論集』雄松堂出版 1996年
『『東北大学所蔵和漢書古典分類目録』編纂事業について』新田孝子(『図書館学研究報告』14 東北大学附属図書館 昭和56年12月)

第二狩野文庫整理メモ (昭和18年6月25日～) 東北大学史料館蔵 図書館 /1986/49
「和漢書別置本目録配布関係資料」東北大学史料館蔵 図書館 /1986/25/4
本学創立二十五周年本館公開関係 東北大学史料館蔵 図書館 /1986/46/2
帝国大学図書館協議会資料(第十次) 図書館 /1986/29/03/1・帝国大学図書館協議会議事録原稿(第十次) 図書館 /1986/29/03/3・帝国大学図書館協議会議事録草案(第十次) 図書館 /1986/29/03/4・帝国大学図書館協議会議事録(第十次) 図書館 /1986/29/03/5 東北大学史料館蔵

『図書館における貴重図書－図書館規準例と諸家規準案－ 附善本台帳書式集』私立大学図書館協会関東部会書誌学学科会(1958年)
『全国国立大学所蔵貴重図書目録 付:文庫・集書一覧貴重図書指定基準』広島大学附属図書館 1973年
「国立国会図書館における貴重書保管の現状について(上)(下)」小林花子(『金沢文庫研究』8巻12号・9巻1号 金沢文庫 昭和37年12月・昭和38年1月)
「国立国会図書館における貴重書保管の現状(追録)」小林花子(『金沢文庫研究』10巻3号 金沢文庫 昭和39年3月)